

教科名		数学Ⅲ	科目名	数学Ⅲ	履修学年	中学・ <u>高校</u>	2年	2	4	5	組
単位数		4	使用教科書 補助教材等	NEXTⅡ・NEXTⅢ							
担当者		山内・林・加来・永野		CONNECTⅡ+B+C(ベクトル) CONNECTⅢ							
学習目標		数学B「統計」数学Ⅲ「函数」「微分積分」などの知識を身に着け、それが日常でどう活かされているかを学ぶ。 また、計算ができるようになるだけでなく、論理的に解法を記入する力を身に着けることで論理的思考力と表現力を養う。									
評価方法											
評価観点		知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む姿勢			
評価規準		教科書の定義、定理、公式を理解し、それを活用して問題が解けるか。			論理的に記述をすることができるか 定理などを活用するだけでは解けない問題に取り組むことができるか			普段の学習態度などが整っていて、学習内容の定着が測れているか 自分の弱点などを把握し、それを克服するように努力をしているか			
各観点の授業内 評価方法等		主に定期考査、到達度確認テストの得点から算出する。また、普段からの小テストなども考慮する。			主に定期考査、到達度確認テストの得点から算出する。また、普段からの小テストなども考慮する。			プリントの課題や振り返り、タテストなどから総合的に評価する。			
学期末の 各観点比率(%)		約50%			約30%			約20%			
授業計画											
学期	月	学習内容・学習単元・学習到達目標等							時間 数	評価 区分 1	評価 区分 2
1	4	【数学B】第2章 統計的な推測 第2節 統計的な推測 【数学Ⅲ】第1章 関数							18	1学期 中間考査	
	5										
	6	第2章 極限 第3章 微分法 第1節 導関数							21	1学期 期末考査	
	7										
	8										
	2	9	第2節 いろいろな関数の導関数 第4章 微分法の応用 第1節 導関数の応用							18	2学期 中間考査
10											
11		第2節 いろいろな応用 第5章 積分法 第1節 不定積分							22	2学期 期末考査	
12											
3	1	第2節 定積分 第3節 積分法の応用							24	学年 末考査	第2回 到達度確認テスト
	2										
	3										

教科名	数学	科目名	数学C	履修学年	中学・ <u>高校</u>	2 年	1,3	組	
単位数	3	使用教科書 補助教材等	数研出版 NEXT 数学B 数学C						
担当者	加来		数研出版 CONNECT 数学Ⅱ＋B 数学Ⅲ＋C						
学習目標	統計的な推測, ベクトルを学ぶ上で、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、来年の大学入試において、文系数学を選択した際に対応できるように基礎力, 数学的に考察する能力を養い、育てていく。								
評価方法									
評価観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む姿勢				
評価規準	基本的事項、公式などを理解しているか。そしてそれらを用いて問題を解くことができるか。		グラフや図形等の知識・技能を活用し、それらを組み合わせることで諸問題に対応しようとしているか。また、自分の考えや解法を正しく表現・説明しているか。		積極的に授業に参加しているか。授業中に取り上げた問題に真剣に取り組んでいるか。自ら必要な課題を設定しそれに取り組んでいるか。				
各観点の授業内 評価方法等	定期考査100点のうち、基本問題を6割程度出題。そのうち、30%以上とれていれば「2」、60%以上とれていれば「3」、80%以上とれていれば「4」をつける。		定期考査100点のうち、基本問題を4割程度出題。そのうち、30%以上とれていれば「2」、70%以上とれていれば「3」をつける。		「調整」と「粘り強く学習に向かう姿勢」で総合判断する。「調整」とはよりよく学習に向かうための努力を意味する。具体的には振り返りや課題の設定の仕方を指す。「粘り強く学習に向かう姿勢」とは出された課題に実直に取り組んでいるかなどを評価する。これらを総合的に見て評価を付ける。				
学期末の 各観点比率(%)	40%		30%		30%				
学期	月	学習内容・学習単元・学習到達目標等					時間数	評価区分1	評価区分2
1	4	【 数学B 】 第 2 章 統計的な推測 第2節 統計的な推測					16	1 学期 中間 考査	到達度確認テスト①
	5	【 数学C 】 第 1 章 平面上のベクトル 第1節 ベクトルとその演算 中 間 考 査							
	6	第2節 ベクトルと平面図形 第 2 章 空間のベクトル §1空間の点 §2空間のベクトル §3ベクトルの成分 §4 ベクトルの内積 期 末 考 査					17	期 末 考 査	
	7								
	8								
2	9	§5ベクトルの図形への応用 §6座標空間における図形 以後、ⅠAⅡBCの復習に入る 中 間 考 査					13	2 学期 中間 考査	到達度確認テスト②
	10	ⅠAⅡBCの復習							
	11						16	期 末 考 査	
	12	期 末 考 査							
3	1	ⅠAⅡBCの復習					17	学 年 末 考 査	
	2	学 年 末 考 査							
	3								

教科名		数学	科目名	数学C	履修学年	中学・ <u>高校</u>	2 年	2, 4, 5 組
単位数		2 単位	使用教科書 補助教材等	教科書： 数研出版 NEXT数学C 問題集： 数研出版 CONNECT数学Ⅱ+B+C				
担当者		高橋						
学習目標		数学C「ベクトル」「複素数平面」「式と曲線」の基本事項を身につけ、次年度入試演習ができる基礎学力を身につける。また、採点者に伝わる答案を記述できるようになる。						
評価方法								
評価観点		知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む姿勢		
評価規準		・教科書の定義・定理・公式を理解し、それらを活用して問題が解けるか。		・公式をそのまま利用するだけでは解けないような問題に果敢に挑戦できるか。 ・途中過程などを含めて、数学の答案を記述できているか。		・自宅学習にしっかりと取り組み、学習内容の定着を図れているか。 ・自分の課題などを把握し、どのように改善していくかを自分で考えられるか。		
各観点の授業内 評価方法等		主に定期考査の得点で評価する。2, 3 学期は到達度確認テストの得点も考慮する。また、小テストへの取り組みも考慮する。				主に問題集ノート 提出やプリント 課題の提出によって評価する。		
学期末の 各観点比率(%)		約80%				約20%		
授業計画								
学期	月	学習内容・学習単元・学習到達目標等					時間数	評価区分1 評価区分2
1	4	【数学C】第4章 式と曲線 第1節 2次曲線					10	1学期中間考査
	5							
	6	【数学C】第1章 平面上のベクトル 第1節 ベクトルとその演算 第2節 ベクトルと平面図形 5. 位置ベクトル					11	1学期期末考査
	7							
	8							
2	9	【数学C】第1章 平面上のベクトル 第2節 ベクトルと平面図形 6. ベクトルの図形への応用 7. 図形のベクトルによる表示					9	2学期中間考査
	10	【数学C】第2章 空間のベクトル 1. 空間の点 2. 空間のベクトル 3. ベクトルの成分						
	11	【数学C】第2章 空間のベクトル 4. ベクトルの内積 5. ベクトルの図形への応用 6. 座標空間における図形					11	2学期期末考査
	12	【数学C】第3章 複素数平面 1. 複素数平面						
3	1	【数学C】第3章 複素数平面 2. 複素数の極形式 3. ド・モアブルの定理 4. 複素数と図形					9	学年末考査
	2	【数学C】第4章 式と曲線 第2節 媒介変数表示と極座標						
	3							

教科名	数学	科目名	数学Ⅰ	履修学年	中学 高校	2 年	6 組	
単位数	3 単位	使用教科書 補助教材等	数研出版 NEXT数学Ⅱ					
担当者	白岳		数研出版 CONNECT数学Ⅱ＋B					
学習目標	新しい単元だけでなく、既習事項も含めて「知識・技能」を習得し、それらを組み合わせることで「思考・判断・表現」の力を養う。 また、自身のレベルに見合った内容を学習してゆく中で「主体的に学習に取り組む姿勢」を身につける。							
評価方法								
評価観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む姿勢			
評価規準	・教科書の定義・定理・公式を理解しているか。 ・問題に対して適切な計算によって正しい結果を導き出せているか。		・基本的な知識を組み合わせることによって解ける問題にも向き合っているか。 ・途中経過なども含めて、数学の答案を記述できているか。		・授業ごとに復習を行い、理解が及ばない点に粘り強く向き合っているか。 ・自らの学習を調整しようとしているか。			
各観点の授業内 評価方法等	定期考査の得点(知識・技能の観点)		定期考査の得点(思考・判断・表現の観点)		宿題や小テストへの取り組み 解き直しノートの取り組み 授業内活動			
学期末の 各観点比率(%)	50%		30%		20%			
授業計画								
学 期	月	学習内容・学習単元・学習到達目標等				時 間 数	評 価 区 分 1	評 価 区 分 2
1	4	第3 章 図形と方程式 第2 節 円 第3 節 軌跡と領域				約 16	中 間 考 査	到 達 度 確 認 テ ス ト ①
	5							
	6	第4 章 三角関数 第1 節 三角関数				約 19	期 末 考 査	
	7							
	8	【夏期講習会】 【夏休みの課題】						
2	9	第4 章 三角関数 第2 節 加法定理 第5 章 指数関数と対数関数 第1 節 指数関数				約 18	中 間 考 査	到 達 度 確 認 テ ス ト ②
	10							
	11	第5 章 指数関数と対数関数 第2 節 対数関数 第6 章 微分法と積分法 第1 節 微分係数と導関数				約 22	期 末 考 査	
	12							
	12	第1 節 微分係数と導関数				約3		
		【冬休みの課題】						
3	1	第6 章 微分法と積分法 第2 節 関数の値の変化 第3 節 積分法				約 18	学 年 末 考 査	
	2							
	3	【春期講習会】 【春休みの課題】						

教科名		数学Ⅱ	科目名	数学Ⅱ	履修学年	中学・ <u>高校</u>	2年	7	8	9	組
単位数		4	使用教科書 補助教材等		NEXTⅡ・NEXTⅢ CONNECTⅡ+B+C(ベクトル) CONNECTⅢ						
担当者		林・竹田									
学習目標		数学Ⅱの「三関数」「微分積分」数学Ⅲ「関数」「微分積分」などの知識を身に着け、それが日常でどう活かされているかを学ぶ。 また、計算ができるようになるだけでなく、論理的に解法を記入する力を身に着けることで論理的思考力と表現力を養う。									
評価方法											
評価観点		知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む姿勢			
評価規準		教科書の定義、定理、公式を理解し、それを活用して問題が解けるか。			論理的に記述をすることができるか 定理などを活用するだけでは解けない問題に取り組むことができるか			普段の学習態度などが整っていて、学習内容の定着が測れているか 自分の弱点などを把握し、それを克服するように努力をしているか			
各観点の授業内 評価方法等		主に定期考査、到達度確認テストの得点から算出する。また、普段からの小テストなども考慮する。			主に定期考査、到達度確認テストの得点から算出する。また、普段からの小テストなども考慮する。			プリントの課題や振り返り、タテストなどから総合的に評価する。			
学期末の 各観点比率(%)		約50%			約30%			約20%			
授業計画											
学期	月	学習内容・学習単元・学習到達目標等							時間 数	評価 区分 1	評価 区分 2
1	4	【数学Ⅱ】第3章 図形と方程式 第2節 2つの円～ 第3節 軌跡と領域 第4章 三角関数 第1節 三角関数							18	1学期 中間考査	
	5										
	6	第2節 加法定理 第5章 指数関数と対数関数 第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数							21	1学期 期末考査	
	7										
	8										
	2	9	第2節 関数の値の変化 第3節 積分法 【数学Ⅲ】第1章 関数							18	2学期 中間考査
10											
11		第2章 極限 第3章 微分法(一部除く)							22	2学期 期末考査	
12											
3	1	第4章 微分法の応用(一部除く) 第5章 積分法 第1節 不定積分							24	学年 末考査	第2回 到達度確認テスト
	2										
	3										

教科名	数学B	科目名	数学B	履修学年	中学・ 高校	2年	6・7・8・9	組	
単位数	2	使用教科書 補助教材等	NEXTB・ NEXTC						
担当者	林・ 赤岩		CONNECT II +B+C(ベクト ル)						
学習目標	数学B「数列」数学C「ベクトル」の知識を身に着け、それが日常でどう活かされているかを学ぶ。 また、計算ができるようになるだけではなく、論理的に解法を記入する力を身に着けることで論理的思考力と表現力を養う。								
評価方法									
評価観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む姿勢				
評価規準	教科書の定義、定理、公式を理解し、それを活用して問題が解けるか。		論理的に記述をすることができるか 定理などを活用するだけでは解けない問題に取り組むことができるか		普段の学習態度などが整っていて、学習内容の定着が測れているか 自分の弱点などを把握し、それを克服するように努力をしているか				
各観点の授業内 評価方法等	主に定期考査、到達度確認テストの得点から算出する。また、普段からの小テストなども考慮する。		主に定期考査、到達度確認テストの得点から算出する。また、普段からの小テストなども考慮する。		プリントの課題や振り返り、タテストなどから総合的に評価する。				
学期末の 各観点比率(%)	約50%		約30%		約20%				
授業計画									
学期	月	学習内容・学習単元・学習到達目標等					時間数	評価区分1	評価区分2
1	4	【 数学B】 第1 章 数列 第1 節 等差数列と等比数列 第2 節 いろいろな数列 6. 和の記号Σ					10	1 学期 中間 考査	
	5								
	6	7. 階差数列～ 第3 節 漸化式と 数学的帰納法					11	1 学期 期 末 考 査	
	7								
	8								
	2	9	【 数学C】 第1章 平面ベクトル 第1 節 ベクトルとその演算					10	2 学期 中間 考査
10									
11		第2 節 ベクトルと 平面図形					11	2 学期 期 末 考 査	
12									
3	1	第2 章 空間ベクトル					12	学 年 末 考 査	第2 回 到達 度 確認 テ ス ト
	2								
	3								